

## What a Wonderful World Happy Doll Project 2009

人が生きている喜びを実感できるのはどんな瞬間なのでしょう？  
たとえば心身の不調に直面した時、たとえば残された時間の中で、  
新しい朝を迎えられ、かけがえのない人が今、目の前に生存し微笑んでいるだけでも  
限りない喜びを感じられるものかもしれません。

ハッピードールプロジェクトは、生老病死という、  
人生の根源的なステージを向える病院で、人の心をつないでいこうとする試みです。  
患者さんやご家族、病院職員など老若男女が一緒に集い、自由に楽しく作られた布のマスコット、  
“ハッピードール”は、他院で制作された作品と一緒に仲良く並んで展示されます。  
病気や怪我と向き合う人々が実は、全国にたくさん存在することを“ハッピードール”の数が  
実感させてくれるのです。自分だけじゃない！全国に、世界中に、どこかで頑張っている人々がいる  
と感じることは、力が湧く一つの原動力になるに違いありません。  
こうして、患者さんたちが作った作品は微笑みを誘い、心をつなぎ合いながら  
病院を巡るたびにその数を増やし、ハッピーパワーも増大し続けてきました。

何百と生まれた作品たちですが、どれもが世界でたった一つのもの。  
みんな違ってみんな魅力的です。  
人間は一人一人個性的で、本当に違う存在なのだということを改めて気づかせてくれます。  
それぞれの思いをこめて作られたお守りたちには、見る人を元気づけ微笑ませる独特の力も内在し  
ています。病院という空間で作られたにもかかわらず、それらは肩の力が抜けるユーモア感もあり、  
温かい包容力も併せ持っています。

これら“ハッピードール”が生まれた現場にはいつも、人々の笑顔があふれていました。  
そこで、子どもを励まし明るく振舞うお母さんや小さな体で健気に頑張る子どもたち、  
不自由になった機能の回復に励む高齢者の皆さんや  
温かく支える看護師さんたちと出会い、  
人間の素晴らしさを改めて感じる事ができました。  
また、生きることの輝きに身が引き締まる思いも致しました。  
たくさんのお出会いと別れもありましたが、このプロジェクトを通して私自身、  
たくさんの皆さまから笑顔を頂き、多くの気づきと貴重な経験をさせて頂きましたことを  
大変幸せに感じています。

ハッピードールプロジェクトが誕生して、早くも4年が経ちました。  
駆り立てられるように始めて以来、たくさんの方々に支えられて  
継続することができましたことに改めて感謝の気持ちでいっぱいです。  
また、念願のハッピードール作品集第二弾がここに誕生したことを何より幸せに感じています。この  
出版を可能にしてくださいました、  
サノフィ・アベンティス株式会社様に心より御礼申し上げます。

この小さな作品集が、全国各地の病院にいる皆さまをはじめ、お手元に届いた皆さまに微笑をもたら  
し、生きる元気がわいてきますように、心からお祈り申し上げます。

みんな、みんな、元気になあれ！

2009年10月30日  
Wonder Art Production  
代表 高橋雅子

